

## 平成 30 年度事業報告

### 1. 事業概要

当センターでは平成 29 年度末に、平成 30 年度を初年度とし平成 37 年度を最終年度とする計画期間 8 年間の第 3 次中・長期計画を策定しました。

平成 30 年度はその第 3 次中・長期計画の初年度でした。

第 3 次中・長期計画では、会員数、契約金額など多くの項目で高い目標を掲げており、それを達成するための様々な取り組みが掲げられています。

平成 30 年度はその中でできることを鋭意進めてまいりました。

はじめに推進体制ですが、新たな取り組みを企画し、実現していくには総務部会、事業部会、広報部会、女性部会という 4 つの専門部会とそれに属する各委員会の積極的な取り組み、その取り組みを横断的に調整し方向を決定するセンター事業推進会議、更には事業実施を予算措置の視点でも検討し実施の決定をする理事会など、組織として一丸となって取り組むことが求められます。

平成 30 年度にはそれらの推進体制の整備が進み、各部会等で実施すべきこと、実施したいことについての議論が積極的になされてきました。

次に、そのような推進体制の中で平成 30 年度には、

①軽度生活援助サービス班を単発作業班に見直しし、地域の単発作業の調整を地域班と連携しながらできる体制を整備しました。

②入会説明会と登録会を一本化しました。

③入会説明会での説明を魅力あるものにし、かつ標準化するために説明会用 DVD を制作しました。

④シルバー人材センターのプロモーション動画を作成し、ホームページで入会説明会参加の予約ができるよう準備をしました。

⑤介護予防・日常生活支援総合事業「困りごとコース」のサービス提供事業者に参加しました。

⑥福祉有償運送事業サービスを開始しました。

⑦新たな就業マニュアルを整備しました。

⑧女性部会主体の独自イベントを開催しました。

平成 30 年度の事業実施結果の概況としましては、会員数は平成 30 年度末 2,116 人（男性 1,637 人、女性 479 人）で、平成 29 年度末会員数 2,151 人（男性 1,672 人、女性 479 人）に比べて 35 人の減となりました。全体では減ですが女性会員は増減がありませんでした。

契約金額は 923,639 千円となり、前年度（916,680 千円）より 6,958 千円の

増、対前年度比で0.8%の増となっております。

就業実人数は、1,743人で前年度末1,797人に比べて54人の減、就業率は82.4%で前年度の83.5%と比べ1.1ポイントの減、受託件数は14,390件で対前年度比1.1%の減となっております。

契約金額以外は、平成29年度より低い値となっております。

事故件数につきましては、平成30年度は傷害事故19件、賠償事故16件の計35件となっており、平成29年度の傷害事故11件、賠償事故5件、計16件に比べて2倍以上の発生となっております。

## 2. 第3次中・長期計画の数値目標と実績

第3次中・長期計画では、短期目標年度を平成31年度に設定しておりますが、平成30年度についても中間での目標を設定しています。

その目標と平成30年度の実績を比べると次の表1「中・長期目標と平成30年度実績」のとおりです。

表1 中・長期目標と平成30年度実績

目標設定項目(抜粋)	平成29年度実績	平成30年度実績	平成30年度仮目標	達成率
1 受託件数	14,547	14,390	16,024	89.8
2 就業実人数	1,797	1,743	2,047	85.1
3 契約金額	916,680,393	923,638,715	1,020,723,000	90.5
4 派遣事業受託件数	28	30	32	93.8
5 派遣契約金額	20,232,301	27,782,102	32,000,000	86.8
6 派遣就業延べ人数	3,378	4,498	5,280	85.2
7 家事援助サービス受注件数	1,594	1,669	1,833	91.1
8 就業率	83.5	82.4	84.0	98.1
9 傷害事故発生件数	11	19	0	-
10 賠償事故発生件数	5	16	0	-
11 会員数	2,151	2,116	2,437	86.8
12 男性	1,672	1,637	1,828	89.6
13 女性	479	479	609	78.7

### 3. 事業実施状況

#### (1)就業の場の確保と就業機会の拡大

##### ア. 就業の場の確保

###### a. 単発作業受注の拡大

単発作業の受注を確保、拡大するために、地域班、単発作業班の連携を強化し、単発作業について地域で対応できるような仕組みを整え、また、地域班の就業開拓員による地域でのPRチラシの配布についても従来と同様に実施いたしました。

更に平成30年度には、町会のふれあい会食会でセンターが提供できる各種サービスのプレゼンをさせていただくなど、町会を対象にしたPR活動も実施いたしました。

家庭からの受託件数は平成29年度10,125件、30年度9,962件で、やや減少しましたが、その契約金額は平成29年度172,571千円、平成30年度176,149千円と3,578千円ほど増加しました。

新しい単発作業の仕事としては、日常生活支援総合事業の「困りごとコース」の実施事業者に参画するとともに、福祉有償運送サービスについても松戸市福祉有償運送運営協議会の承諾を得たうえで、平成31年2月には関東運輸局千葉運輸支局の登録手続きを終了し、事業の準備が整いました。

これらの新事業について、平成30年度はまだ実績があがっておりませんが、平成31年度の取り組みの中で、利用者の拡大を図ってまいります。

なお、第3次中・長期計画に掲げた地域班や単発作業班などによる地域での就業開拓イベントや新聞折り込みによる受注拡大は、平成30年度には実施しておりません。

###### b. 継続就業の拡大

継続就業の拡大には、派遣業務や継続的な請負業務などについて、事業所などに情報を提供する体制を整える必要があります。

平成30年度は、ホームページでの情報提供やチラシの配布などを実施しましたが、中・長期計画に掲げた「事業所への戸別訪問」につきましては、事業部会などで必要性についての共通理解は得られているものの、具体的な実施はできませんでした。

その中で民間企業からの受託件数は平成29年度3,858件、平成30年度3,877件とやや増加しましたが、契約金額は平成29年度278,213千円に対して平成30

年度 269,159 千円と 9,054 千円ほど減少しました。

平成 31 年度は、千葉県シルバー人材センター連合会が実施するアンケート調査の結果を活用した事業所訪問や国の補助事業「高齢者活躍人材確保育成事業」として千葉県シルバー人材センター連合会が国と連携し実施する各種 P R 事業や就業体験事業などを有効活用し、事業所などへの情報発信を整え、就業の場を拡大してまいります。

## イ. 就業率の向上

就業率は平成 29 年度 83.5%に対して平成 30 年度は 82.4%と、少し減少しました。

就業率を高めるには、的確に、きめ細かく就業情報を提供するなど、未就業者に就業をしていただく働きかけが必要です。

平成 30 年度にはホームページで就業情報を提供できる仕組みなどを検討しておりますが、まだ実施には至っておりません。

また、未就業者に対してヒアリングやアンケート調査を実施し、就業者を増やすアイデアなどがでておりますが、これも実施には至っておりません。

これらについては平成 31 年度の課題として捉えております。

その中で、平成 30 年度には事業部会が中心となり「公共施設関係に係わる就業基準」に代わる新たな就業マニュアルを策定しました。

就業マニュアルにはローテーション就業、ワークシェアリングの仕組みが組み込まれています。

就業マニュアルを推進することで、会員が仕事を分け合い、周期的に仕事を交代する体制が整いますので、そのことが、未就業会員が希望の職種に就ける機会の拡大につながり、就業率の向上にもつながることになります。

なお、平成 30 年度には「就業相談日」に相談にいらした未就業会員が、それをきっかけに実際の就業ができるような相談体制について検討を始めました。

## ウ. 配分金の水準確保

配分金単価につきましては、最低賃金等を勘案していただくように発注者にお願いました。その結果、公共関係事業などで平成 29 年度最低で 845 円であったものが、平成 30 年度には 870 円となり金額で 25 円、率で約 3%の増額となりました。

民間企業等につきましても、多くの企業等が最低賃金を視野に単価を検討してくださいました。

また、単発作業と継続作業の組み合わせによる配分金の平均化も就業マニュアル整備のなかで実施していく体制を整えました。

## エ. 就業の質の向上と安全適正就業の推進

就業の質の向上や安全就業につきましては、平成30年度には延べ3日間にわたる接遇力向上研修・交通安全講習会を実施し、接遇技術の向上や交通安全意識の向上を図るとともに、延べ2日の植木剪定安全適正・技能講習会、保育補助技能講習など作業技術の向上を図る講習等を延べ12回開催いたしました。

その中には千葉県県シルバー連合会との連携による保育分野・自動車運転分野の技能講座も含まれております。

安全適正就業の推進につきましては、安全適正就業管理委員会が中心となり交通安全講習会、自転車安全講習会、刈払機講習会、自転車安全講習などを全9回ほど実施し、就業中や就業の行き帰りの安全意識の向上を図りました。

平成30年度の事故件数を昨年度と比較すると次の表2「事故発生件数」のとおりで、平成30年度は事故が非常に多発してしまいました。

特に、賠償事故は平成29年度の3倍以上の発生件数になっており、就業に当たっては事故を予見し、防止する意識の向上を働きかける更なる安全向上への取り組みが必要です。

表2「事故発生件数」

項目	30年度	29年度	比較
傷害事故	19件	11件	8件増加
就業中	12件	8件	4件増加
就業途上	7件	3件	4件増加
賠償事故	16件	5件	11件増加
合計	35件	16件	19件増加

## オ. 会員の健康状況を維持、向上

健康状況を維持、向上する基本になるのが健康診査などをきちんと受けることです。そのために、様々な場面で健康診査の受診を呼びかけました。

また、会報はつらつ松戸でも定期的に受診の呼びかけを実施しました。

ただし、市と連携した健康関連講座の開催については実現できませんでしたので、平成31年度の検討課題とします。

## (2)就業以外でも生きがい醸成

平成30年度も、地域班によるお花見などの各種イベントや独自講座などが、延べ19回実施され、地域の班員間のつながりが高められるとともに、出席者の

生きがいが醸成されました。

地域班の取り組みの中には、地域班企画の臨時入会説明会も実施されました。

また、グラウンドゴルフ・手工芸・カラオケ・絵本読み語り・囲碁同好会・松明健康麻雀クラブという同好会の活動も活発に行われ、同好会会員の親睦が高められました。

### (3)会員確保

中・長期計画では会員数の目標を高いレベルで掲げており、平成 30 年度末の会員数の目標は、男性 1,828 人、女性 609 人 合計 2,437 人となっています。

それに対して、平成 30 年度末の会員数は男性 1,637 人、女性 479 人 合計 2,116 人であり、目標と実態に大きな差が生じている状況です。

平成 30 年度には、会員確保のためのいくつかの新たな取り組みを実施いたしましたが、それらが動き出したのが平成 30 年度末で、30 年度中の会員確保については、効果がまだ得られませんでした。

平成 30 年度に整えた仕組みを平成 31 年度には有効活用し、会員増加を目指します。

平成 30 年度の会員確保の取り組みは次のとおりです。

#### ア. 入会説明会の工夫

会員を増やす取り組みとして平成 30 年度には、定例の入会説明会の開催に加えて臨時入会説明会を年 5 回開催しました。

その中で、平成 31 年 3 月には六実市民センターで、地域班による臨時入会説明会と登録会が同日開催されました。

なお、本格的な実施は平成 31 年度からになりますが、平成 30 年度中に、入会説明会と登録会を一本化し、入会説明会では、独自の DVD を活用して説明をビジュアル化し、その後、希望者は登録までできるように体制を整えました。

更に、平成 31 年度からはホームページでの説明会出席予約システムなどが実施できるよう準備を整えました。

#### イ. 入会につながる講習会、研修会などの開催

平成 30 年度には会員登録を前提とした養成講座（植木剪定、自動車運転、保育）を開催しました。

植木職養成講習につきましても、講習料を 2 万円いただいて全 15 回の講習会と全 9 回の講習会を開催しました。受講者は全 17 人で、平成 31 年度からは植木職の会員として就業することになります。

自動車運転につきましても、福祉有償運送に従事する運転者を育成する講座

を千葉県シルバー人材センター連合会主催で 4 回開催し、新規会員を中心に参加者は 17 名確保できました。

保育技能研修につきましても千葉県シルバー人材センター連合会主催で 2 回開催し、参加者は 14 名になりました。

更に、初の試みとして、会員確保に主眼を置いた女性部会による独自イベント「地域の集い」も 3 月に市民劇場で開催したところです。「地域の集い」には 100 人近い来場者があり、その多くが非会員であったことなどから、センターの PR や会員募集につながりました。

#### ウ. 会費の見直し

会費について中・長期計画では、必要に応じて検討を実施するとなっております。他のシルバー人材センターでは、会費の分納などの措置を実施し、年度後半に新規登録する会員の会費負担を軽減する仕組みを取り入れているところもありますが、本シルバー人材センターでは、当面は、会費の見直しは実施せず、登録したら比較的短期に就業先を紹介できるような仕組みを整備し、どの時期に入会しても一年分の会費負担が納得していただけるような体制づくりを心がけ、現行の会費制度を維持できるようにするという方向で臨みます。

#### エ. 退会者を減らす工夫

本シルバー人材センターには、平成 30 年度 256 人の新規登録者がありましたが、退会者はそれを上回る 291 人でした。

退会理由を見ると、身体的な衰えや病気、家族の介護、引っ越しなど、退会がやむを得ない場合もありますが、中には様々な取り組みを実施することで退会を抑制できる理由での退会もあります。

中・長期計画では、地域班の班長による未就業者訪問や就業紹介、ホームページでの就業情報提供などを実施して、仕事がないからやめるという会員を引き留める工夫をすることやボランティア活動、同好会活動、地域班イベントなどを充実して、就業以外でもセンターの魅力向上を図ることがうたわれていますが、平成 30 年度は新たな取り組みは始めることができませんでした。

#### (4) 広報戦略

就業の場の確保、会員増には、市民の皆さんや企業の皆さんにシルバー人材センターについて十分知っていただくことが大事です。

中・長期計画では、幅広い情報提供や PR をどのように効果的に進めるかを示した広報戦略を策定するとなっておりますが、平成 30 年度には広報戦略の立案

まではいきませんでした。

平成 30 年度の取り組みとしては、センターのホームページに導入動画を組み込み、その動画から入会説明会の参加予約ができるようになりました。

広報まつどでの PR につきましては、紙面が限られている中でシルバー人材センターの記事は思い通りに掲載ができないのが実情ですが、それでも、高齢者支援課を窓口とした高齢者特集記事について一回実現できました。

マスメディアなどを活用した PR については、タウン誌やケーブルテレビとのパイプを強化する予定ではありますが、実現はできませんでした。

イベントなどを利用したセンターの PR につきましては、松戸まつり、緑と花のフェスティバル、シニア交流センターまつり、はつらつクラブのイベントでの PR 活動など、様々なイベントに団体として積極的に参加し、PR 活動を展開するとともに、市役所の連絡通路や松戸駅東西連絡通路での PR 活動や駅でのチラシ配布なども継続的に実施し、シルバー人材センターの認知度を高めてまいりました。

## (5) 組織の改編と健全経営

### ア. 組織の改編

はじめに、事務局の体制ですが、中・長期計画に基づく事業展開では、福祉有償運送などの新規事業や会員確保、契約額向上などに向けた新たな取り組みが必要となり、平成 30 年度では事務局には更なる企画力や進捗管理能力が求められるようになりました。

そのため、「事務局プロパー職員意見交換会」を毎月第 2・第 4 水曜日に開催し、理事長を含めた全正規職員が様々な協議をできるようにしました。

次に、理事会や専門部会等ですが、理事会については平成 30 年 5 月末の総会で 5 人の理事の入れ替えを承認していただき、新たな体制で理事会が運営されることになりました。また、専門部会としては総務部会では入会説明会の見直し等の実施、事業部会では就業マニュアル案の策定、女性部会では独自イベントによる会員拡大の取組み、広報部会では会報「はつらつ松戸」の内容検討など、様々な検討が実施されました。更に各委員会でもそれぞれの役割について細かい議論が実施されてきました。

次に、センター全体の組織体制では、平成 30 年度に職群班の「軽度生活援助サービス班」を「単発作業班」として見直し、地域班に合わせた 12 グループに再編し、植木作業と除草作業を除く地域の単発作業の就業調整が地域班と連携してできる体制が整備されました。



## イ. 健全経営

平成 30 年度は、中・長期計画に基づく様々な取り組みを実施するために、新規の取り組みの予算を加えており、当初予算では、経常収益 1,083,104 千円に対して経常支出 1,086,364 千円で当期経常増減額は-3,679 千円でありました。

その結果、一般正味財産期末残高は 96,662 千円の見込みで、平成 31 年度当初の配分金支払見込みなどを考慮しても、十分対応できる予算編成を実施しました。

決算については、経常収益 985,582,943 円に対して経常支出 993,338,519 円で当期経常増減額は-7,755,576 円でありました。

当初予算に比べて決算が収益、支出ともに低いのは、平成 30 年度の当初予算を中・長期計画の目標数値で設定したために、配分金、材料費、事務手数料などについて目標数値と実績との間で差が生じたためです。